

## 猪 貴義先生日本実験動物学会功労賞受賞

本研究会名誉会員の猪 貴義先生が平成12年5月22日に徳島（徳島県郷土文化会館）で開催された第47回日本実験動物学会総会において功労賞を受賞されました。この受賞を記念して、合同祝賀会が6月17日東京（中野区、日本閣東中野店）で開催されました。この度の受賞を心からお祝いするとともに、先生の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

### 猪 貴義先生のご略歴とご功績

猪 貴義先生は、昭和26年3月に東北大学農学部を卒業後、同年4月東北大学農学部助手、昭和37年7月実験動物研究室創設のために農林水産省家畜衛生試験場へ移られ、主任研究官、実験動物研究室長を経て、昭和48年11月に岡山大学農学部教授として赴任されました。平成4年3月に岡山大学を定年退官されるまでの間、教育・研究に専念され、多数の人材を育成し、社会に送り出すとともに数多くの優れた業績を挙げられました。その間、山口大学農学部、琉球大学農学部、岡山大学薬学部・教養部などの講師を兼任され、実験動物学分野の知識と技術の普及、発展に貢献されました。

研究面では、雑種強勢、近交退化、選抜育種など家畜育種学に関連する基礎的ならびに応用的研究を精力的に推進されました。特に、疾患モデル動物の開発に積極的に取り組まれ、十数年にわたる年月を

かけて、アロキサン誘発糖尿病高発症系・低発症系マウスの作出に成功されました。これらのアロキサン誘発糖尿病マウス系統は、近年ジャクソン研究所のエドワード・ライター博士によって糖尿病のモデル動物として紹介され、遺伝子解析が進められています。

先生は、日本実験動物学会、日本畜産学会の理事、評議員を長年にわたって務められるとともに、日本畜産学会関西支部長、副支部長として4期8年にわたり、地域学会の活性化のために貢献されました。昭和58年11月には岡山大学の各学部と県内の大学・研究機関の会員によって編成された岡山実験動物研究会を創立され、初代会長に就任され、4期8年間務められ、地域における大学と研究機関との連携強化に指導的役割を果たされました。また、昭和62年には第34回日本実験動物学会総会を岡山において主宰され、わが国における実験動物科学の進歩、発展に多大の貢献をされました。

先生は、岡山大学を定年退官後も、麻布大学客員教授および日本獣医畜産大学客員教授に就任され、大学における実験動物学の教育を担当されました。さらに、（社）日本実験動物協会の副会長として生産対策専門委員会委員長ならびに教育・認定専門委員会委員長を歴任され、わが国の実験動物産業と実験動物技術者教育の発展にも貢献されました。



日本実験動物学会功労賞授与式



受賞記念合同祝賀会 猪 貴義先生ご夫妻を囲んで  
発起人代表の関口富士男氏(左)と倉林 譲先生(右)